

寅さん歩 その 23

東京の博物館めぐりー12

新宿区ー1

平野 武宏



新型コロナウイルス感染拡大に伴う「緊急事態宣言」は5月25日解除されました。いよいよ「東京の博物館めぐり」の復活ですが、毎日の感染者数が減らない東京都では博物館の一斉再開には環境が整っていない状況です。千代田区や文京区の「博物館めぐり」はまだ残りがあり、順不同になりますが、新宿区の「ミニ博物館」8か所の内5か所の訪問が可能でしたので復活の第一弾です。

「新宿ミニ博物館」(写真右上は資料)は区内の文化財や史跡、伝統産業を担っている職人さんの仕事場などを展示公開しています。いずれも大都会新宿を感じさせない場所でした。入場料はいずれも無料です。最寄り駅は代表例と出口です。

東京2020オリンピック聖火リレー東京都コース バーチャルウォークの途中経過も報告します。

【東京染ものがたり博物館】 新宿区西早稲田 3-6-14

最寄駅 都電荒川線 面影橋駅

「東京染ものがたり博物館」は都電を下りて「面影橋」を渡り、神田川沿いに右折するとあります。(写真下左は入口)、下中は工房入口、下右は工房内です。神田川の清流を求めてこの地で大正3年創業の東京小紋の老舗「高田染工芸」です。染色業は新宿区の地場産業で江戸の伝統を今に伝える東京染小紋や江戸更紗など染色の技法や作品を紹介しています。開館は10時～12時、13時～16時、休館日は土曜・日曜、祝日(第三土曜日は予約で体験教室を開催)



〔十二社熊野神社の文化財〕 新宿区西新宿 2-11-2

最寄駅 大江戸線 都庁前駅 A5

「十二社熊野神社」は都庁隣の「新宿中央公園」の端にあります。室町時代、熊野三山より十二所権現を移し、祀られている「熊野神社」に伝えられる江戸時代以来の文化財や、江戸西部の景勝地として賑わった「十二社」の風景を紹介しています。境内が「ミニ博物館」で、開館は屋外のため日中のみです。写真下左は説明板、右は本殿です。



「十二社」には池や滝がありましたが、滝は明治以後、淀橋浄水場の工事などで埋め立てられ、池は昭和初期より一部が埋め立てられ、1968年(昭和43年)すべてが埋め立てられました。

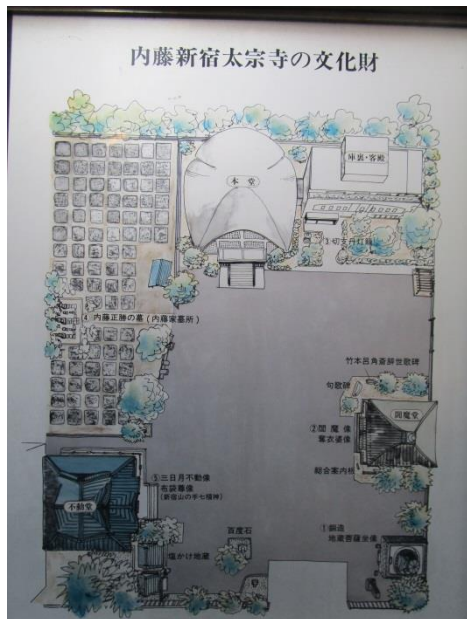
「十二社」とはかつて存在した近辺(現在の西新宿四丁目付近)の旧地名です。

〔内藤新宿太宗寺の文化財〕 新宿区新宿 2-9-2

最寄駅 丸ノ内線 新宿御苑前駅

新宿駅東口から「新宿通り」を歩きました。「太宗寺」境内が「ミニ博物館」との説明板(写真下左)があります。入口右手には江戸時代から親しまれてきた江戸六地藏、閻魔像、奪衣婆像があります。左手奥は信州高遠藩主内藤家の墓所など多数の文化財があります。写真下右はパンフレットです。開館は屋外のため日中のみです。寅次郎のお気に入りの場所で何回も訪問しています。

寅さん歩 09 江戸六地藏、寅さん歩 44 健康ご利益めぐり-8 新宿区-1 および寅さん歩 119 お江戸の閻魔大王-1 をご参照ください。



〔須賀神社三十六歌仙絵〕 新宿区須賀町 5

最寄駅 丸の内線 四谷三丁目駅

新宿線曙橋駅から「新宿歴史博物館」（次回紹介）を訪ねた後「新宿通り」に出て、右折、「四谷三丁目交差点」を「信濃町駅」方面に進み、「左衛門町」を左折します。「須賀神社」はかつては、牛頭天王社（ごずてんのうしや）と稲荷社の二つの神社であったもので、江戸時代は「稲荷天王合社」と呼ばれ、明治にはいり「須賀神社」と改められました。四谷の総鎮守として四谷地区十八町会が氏子町。写真下右は社殿、左は社殿脇にある稲荷神社（天白稲荷神社）です。



稲荷神社の手前に「新宿ミニ博物館」として新宿区指定文化財「三十六歌仙絵」のパネル（レプリカ）が展示（写真下）されています。興味のある方は現地でじっくりとご覧ください。



説明板によると「三十六歌仙は、平安時代中期の公卿 藤原公任（966～1041）が、過去および同時代の優れた歌人三十六名を選定したもので、万葉歌人から柿本人麿・山部赤人・大伴家持の 3 名が、平安時代前期の「古今和歌集」頃から紀貫之・在原業平・小野小町ら三十三人が選ばれている。須賀神社の三十六歌仙絵は、三十六歌仙を一人一枚の絵に仕立てたもので、縦五十五センチメートル、横三十七センチメートルの絹地に彩色したものを額装して拝殿内に掲げている。天保七年（1836）に奉納されたもので、当時、文人画家として高名だった四谷大番町（現在の太京町）の旗本 大岡雲峰（1764～1848）が絵を和歌や書画で人気を博した公卿 千種有功（1797～1854）が書を担当した。四谷の総鎮守として信仰を集めた須賀神社の隆盛を物語る文化財のひとつである。平成二十八年十二月二日 新宿区教育委員会」と記載。

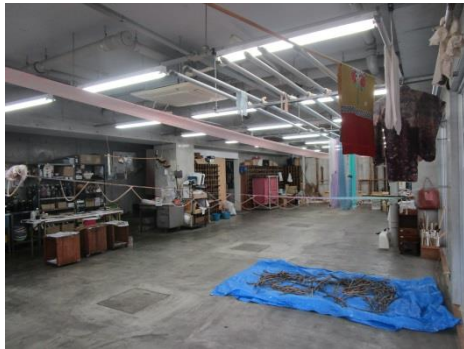
【染の里おちあい（二葉苑）】 新宿区上落合 2-3-6

最寄駅 大江戸線 中井駅 A2

先に紹介した「東京染ものがたり博物館」より上流に位置する「染の里」です。新宿区の地場産業である染色業は大正から昭和の初期にかけて神田や浅草などに多かった染色業が水洗いに使う清流を求めて神田川をさかのぼり落合・早稲田あたりに定住したのが始まりです。後に「妙正寺川」（写真下右）が流れる「染の里おちあい（二葉苑）」（写真下左）は 1920 年（大正 9 年）に落合で開業の古い歴史を持つ染色工房です。妙正寺川は杉並区妙正寺池を源として中野区を経て新宿区下落合 1 丁目で神田川に合流しています。



東京染子紋や江戸更紗といった手染めの技法が今に伝えられ、その作業や作品を見学できます。写真下は外から覗いた工房です。開館時間は 11 時～17 時、休館日は日曜・月曜日です。



【こぼれ話—1】 山吹の里

「東京染ものがたり博物館」に向かう時に神田川の面影橋を渡ると「山吹の里」の碑（写真右）を見つけました。これは太田道灌が鷹狩に出かけて雨に遭い、農家の若い娘に蓑を借りようとした時、山吹を一枝差し出された故事にちなんでいます。

この先の新宿区山吹町から面影橋一帯は通称「山吹の里」と言われ、中世の交通の要所だったそうです。

「山吹の里」は荒川区町屋や埼玉県や神奈川県にもあるようですが、都庁隣の「新宿区中央公園」でもその像（写真下）を見つけました。



石に刻まれた説明には「太田道灌が武蔵野で鷹狩りした時の情景」と記載。太田道灌と山吹の枝を差し出す娘の二人の格好が良く表現され、二人の会話が聞こえて来そうな像です。寅次郎、しばし立ち止まり眺めていました。



〔こぼれ話―2〕 花園神社境内の芸能浅間神社 新宿区新宿 5-17-3

最寄駅 丸ノ内線 新宿三丁目駅E2

靖国通りに面し、新宿の総鎮守として江戸の昔から見守ってきた「花園神社」(写真下左)の境内(大鳥居の右側)に「芸能浅間神社」(写真下右)があります。

1928年(昭和3年)に創祀され、「富士講」で繁栄した浅間神社です。

名誉宮司の片山文彦(医師)は学生時代芸大の音楽の教授に師事し演劇の脚本を書いた人物であり、1967年(昭和42年)唐十郎が率いるアングラ劇団「状況劇場」が紅テントで演劇をする場に境内を提供している。その後も芸能関係に関与しており、演劇や歌曲の芸能関係者の奉納が多く、全国の浅間神社の中でも「芸能」に関わり合うのは珍しいとのこと。写真下右の鳥居右足元の先には藤圭子の「圭子の夢は夜開く」の歌碑が建立されています。



〔バーチャルウォーク途中経過〕

八柳修之さんの東京2020オリンピック聖火リレー神奈川県コース(380km)と東京都コース(160km)のバーチャルウォークがF W Aホームページに

「Y R・四季の道」に掲載されました。

東京 2020 オリンピック・パラリンピックは 2021 年に延期となり、予定の聖火リレーは中止となりましたが、バーチャルウォークの聖火リレーは健在です。



寅次郎、5 月 14 日 東京都コース（160 k m）に挑戦、世田谷区駒沢のオリンピック公園をスタート、世田谷区、狛江市、稲城市、町田市、多摩市、日野市、昭島市、八王子市、檜原村、奥多摩町、日の出町、青梅市、瑞穂町、羽村市、あきる野市、福生市、武蔵村山市、立川市、国立市、国分寺市、小平市、東大和市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市、小金井市、調布市（都下島しょ部は省略）、三鷹市、武蔵野市、杉並区、中野区、練馬区、豊島区、板橋区、北区、足立区、葛飾区、江戸川区、墨田区、荒川区、台東区を経て 6 月 27 日文京区（127.6 k m 地点）に到着しました。次は千代田区に向かいます。

しばらくは例会や Y R がお休みですので、自宅近くにマイお散歩コースを見つけ、その距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。FWA の H P 「Y R・四季の道」には「ひとりで歩くコーナー」があり、コースが紹介されています。マイお散歩や一人歩きでの距離を累計して進む「バーチャルコース」が多く掲載されていますのでご利用ください。歩く際は密閉・密集・密接の 3 密にならないようご注意ください！

次回からは「東京の博物館めぐり」が続きます。

平野 寅次郎 拝